

群馬県大学図書館協議会 会報 第7号

発行 2001年12月25日
編集 群馬県大学図書館協議会
「会報」編集委員会
前橋市荒牧町4-2
(群馬大学附属図書館内)
☎ 027-220-7169

平成13年度 大学図書館研究会を開催

群馬県図書館協会共催 於 育英短期大学

テーマ:「情報リテラシー教育」について

今年度の研究会は、「情報リテラシー教育」について、9月11日(火)、育英短期大学を会場に22館35名の参加を得て開催されました。

今回のテーマは、昨今の情報通信技術(IT)の急速な発展にともなう情報媒体の多様化及び情報量の激増に対応するため、図書館が積極的に取り組まなければならない課題のひとつとして取り上げたものです。

研究会は、小杉正紀協議会会長、会場館より檀原忠男館長の挨拶の後、群馬大学附属図書館情報管理課・土師図書情報係長からOA教室で機器を使い「情報リテラシー教育」について講演がなされた。

講演では、「情報リテラシー教育」の経過や群馬大学附属図書館での事例が紹介された。

会場を会議室に変え、引き続き講師を交え、各館から事例報告があり、活発な意見交換がなされた。

研究会終了後、昨年に続き懇親会が開催され、和やかなひとときとなった。

基調講演資料と文献検索演習の主な基本的文献ツール一覧を掲載します。



基調講演会場(育英短期大学)

基調講演

「情報リテラシー教育」について

群馬大学附属図書館 情報管理課
図書情報係長 土師 守

1. 「情報リテラシー」の誕生

- 1974年、当時の情報産業協会会長Zurkowskiが全米図書館・情報学委員会(NCLIS)への提案書の中で、アメリカの国家計画としての「情報リテラシー教育」の必要性を説く。
“Library Literacy”(図書館利用技術)から“Library Literacy”へのシフト
“Literacy”の本来の意味: 読み書き能力、誰もが獲得しておくべきもの。
 - Cf. Zurkowski, P.G. “The information service environment relationships and priorities(NCLIS-NPLIS-5)” 1974, 30p.
 - 「情報リテラシー」とは従前の「文献利用指導教育(BI: Bibliographic Instruction)」に種々のリテラシー(「Computer Literacy」「Network Literacy」「Media Literacy」「Hypertext Literacy」等)の統合されたもの。
 - Cf. アメリカ図書館協会(ALA)情報リテラシー諮問委員会による定義:
「情報リテラシーとは、情報が必要であるという状況を認識し、情報を効果的に探索し、評価、活用する能力」
- #### 2. 「情報リテラシー教育」とは
- (大学・短大の場合)
- 1960年代のFORTRAN等のプログラミング学習中心の「情報処理教育」から情報活用能力、問題解決能力の獲得を中心とする「情報教育」への重点移行。

- ・大学・短大における「情報リテラシー」とは、「情報教育」の中の「一般情報教育」的な部分を指す。
- ・「情報リテラシー教育」の学習目標
 - ①情報活用能力や問題解決能力などの育成をめざす教育であること。
 - ②全ての学生に必要な基礎・基本の能力を育成する教育であること。
 - ③高等学校等で行われる情報教育との、接続性(校種間接続)を配慮しなければならないこと。
 - ④生涯学習(Lifelong Education)へのスムーズな移行性を考慮すべきであること。

3. 日本における「情報リテラシー教育」

- ・情報リテラシー(「情報活用能力」に対応)

「臨時教育審議会第二次答申」(昭和61.4)で初めて用いられ、「情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的資質」を意味する。
- ・情報活用能力の内容を(「情報教育に関する手引」)(文部省:平成3年7月)
 - ①情報の判断、選択、整理、処理能力及び新たな情報の創造、伝達能力
 - ②情報化社会の特性、情報化の社会や人間に対する影響の理解
 - ③情報の重要性の認識、情報にたいする責任感
 - ④情報科学の基礎及び情報手段(特にコンピュータ)の特徴の理解、基礎的な操作能力の習得
- ・情報教育の目標(「体系的な情報教育の実施に向けて」(平成9年10月3日)「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」)(<http://www.monbu.go.jp/series/00000026/>)
 - ①情報活用の実戦力
 - ②情報の科学的な理解
 - ③情報社会に参画する態度
- ・情報リテラシー教育の必要条件
 - ①問題発見能力
 - ②問題解決能力
 - ③コミュニケーション能力(プレゼンテーション能力)
 - ④情報理論に基づく思考力
- ・小学校・中学校学習指導要領

告示:平成10年12月14日
実施:平成14年4月1日

「総合的な学習の時間」において情報教育を行う。

 - ①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能

力を育てること。

- ②学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動を主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

・高等学校学習指導要領

実施:平成15年4月1日

「総合的な学習の時間」・普通教科「情報」・専門教科「情報」において情報教育を行う。

・情報リテラシーの側面

- ①情報活動
- ②批判的思考
- ③情報探求
- ④問題発見
- ⑤リテラシー(言語運用能力)

文献検索演習(主な基本的文献ツール一覧)

1. 日本十進分類法(新訂8版)
2. カード目録
3. 代表的な二次文献(索引、目録など)
 - ・国立国会図書館蔵書目録(明治期～1990)累積版
 - ・帝国図書館和漢図書書名目録(明治27年～昭和24年)
 - ・新収洋書総合目録(1959～1987)
 - ・国立国会図書館蔵書 洋書編(1948～1986, 1990, 1992)
 - ・国立国会図書館所蔵国内逐次刊行物目録(平成9年末現在)
 - ・国立国会図書館所蔵外国逐次刊行物目録(1992年末現在)
 - ・国立国会図書館所蔵科学技術関係欧文会議録目録
 - ・National Union Catalogue Pre-1956 Impint (ed. by LC&ALA)
 - 1966年以後は「NACSIS-CAT」「NACSIS-IR」で検索可
 - ・翻訳図書目録
 - ・日本書籍総目録
 - ・出版年鑑
 - ・日本資源文献目録
 - ・雑誌新聞総かたろぐ
 - ・学術雑誌総合目録 和文編・欧文編
 - ・大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録
 - ・雑誌記事索引 人文・社会編・自然科学編

4. オンライン検索、CD-ROM検索

- NACSIS-Webcat(国立情報学研究所・総合目録データベース)(WWW版)
- NACSIS-IR(国立情報学研究所)
- NACSIS-ELS(国立情報学研究所)
- OPAC検索(Online Public Access Catalogue)
- 電子ジャーナル
- CD-ROM
 - HI-ASK(朝日新聞全文記事情報)
 - PsycINFO CD-ROM(心理学文献データベース)(1966～Current)
 - MEDLINE(医学文献データベース)
 - CINAHL:CD Nursing & Allied Health(看護学文献データベース)

5. インターネットを利用した検索

- 他大学OPAC
 - http://www.libra.titech.ac.jp/libraries__japan.html
 - <http://www.ss.cc.affrc.go.jp/ric/opac/opacolist.html>
- 図書目録及び新刊案内等
 - [http://www.library.pref.gunma.jp/\(群馬県立図書館\)](http://www.library.pref.gunma.jp/(群馬県立図書館))
 - [http://www.trc.co.jp/\(TRC:図書館流通センター・図書検索\)](http://www.trc.co.jp/(TRC:図書館流通センター・図書検索))
 - [http://www.books.or.jp/\(日本書籍出版協会\)](http://www.books.or.jp/(日本書籍出版協会))
 - [http://www.maruzen.co.jp/\(丸善\)](http://www.maruzen.co.jp/(丸善))
 - [http://www.kinokuniya.co.jp/\(紀伊国屋書店\)](http://www.kinokuniya.co.jp/(紀伊国屋書店))
- 文献目録データベース
 - [http://www.ingenta.com/\(Web版UcCover\)](http://www.ingenta.com/(Web版UcCover))
- 国立民族学博物館 服装雑誌記事データベース等(<http://www.minpaku.ac.jp/>)
- wwwサーチエンジン
 - google(<http://www.google.com/>)
 - yahoo!(<http://www.yahoo.com/>)
 - yahoo! Japan(<http://www.yafoo.co.jp>)
 - Goo(<http://www.goo.ne.jp/>)

6. 文献コピーの入手方法

- 1) 学内所蔵の確認

「群馬大学学術雑誌目録」・OPAC・「学術雑誌総合目録」などの検索

2) 学外への複写依頼

図書館を通して「文献複写申込書」にて他大学に依頼することができる。

1枚35円、通常10日間ほどで入手できる。(至急の場合はFAXでの送付依頼も可:1枚75円)

3) 現物貸借(図書館間)

本そのものも他大学から借りることができる。



研究会に参加して 【参加館からの声】

高崎経済大学

松本 有由美

基調講演では、「情報リテラシー」についての定義等の解説、そして、「情報リテラシー教育」については具体的なお話をしていただき、たいへん勉強になりました。

また、基調講演後の自由討議では皆さんのお話を聞くことができ、あらためて「情報リテラシー教育」を実施するにも様々な方法があることと、その方法も図書館の体制によって違いがあることを実感し、情報収集の場である図書館で対応する私たち職員にとっても「情報リテラシー」の能力向上は重要な課題ではないかと思いました。

皆さんのお話もたいへん参考になるものが多く、自館における今後の「情報リテラシー教育」の課題に役立てていきたいと思えます。

群馬松嶺福祉短期大学

小林 多美子

自分にとって今回のテーマである「情報リテラシー教育」は、日頃“OPACの使い方がわからない”“請求記号って何?”という学生たちに接するたびに頭をかすめていた問題であった。

そういった学生がいるのは、満足に情報リテラシー教育と呼べるようなものを行えていない図書館の責任が大きいのだろうと感じていたからである。

そんな折りにこのテーマについて深く考えられたことは非常に有意義であった。また、アンケートで他館の状況を知ることが出来たことも、自館の状況がどの程度なのかを省みるいい機会となった。

情報リテラシー教育とは、大規模図書館と小規模図書館で非常に差が付いてしまうサービスの一つなのではないかと思う。

職員数の少ない本学のような小規模図書館ではなかなかそこまで手が回らないというのが現状なのだが、出来ることならそれを言い訳にせず取り組んで行けたらと思う。

実際に授業との連携をはかり、積極的に取り組んでいる小規模図書館も存在するわけだから、要は職員の意識次第ということなのかもしれない。

「この大学に来たから図書館の使い方を覚えられなかった」と学生に言われぬように日頃から自己研鑽に励み、少しでも日々の業務の中で活かしていきたいと思う。

東洋大学板倉分館

布施 賢治

今回のテーマは、「情報リテラシー教育について」でしたが、「情報リテラシー」という言葉の正確な意味を知らなかった私にとって、とても興味深いテーマでした。

基調講演では、情報リテラシーの誕生から話していただき、大変勉強になりました。

また、自由討議では、各図書館の抱える悩みや素朴な質問などを聞き、自館ではどう処理しているかを見直すいい機会になりました。話を聞くばかりであまり積極的に意見を言えなかったのが、次回はもう少し活発に意見交換ができればいいと思いました。



前橋工科大学

小淵 里紗

今回の研究会テーマである「情報リテラシー」という言葉は、私にとっては聞き慣れない言葉であり、図書館にどう関わってくるものかも理解出来ない状況でした。

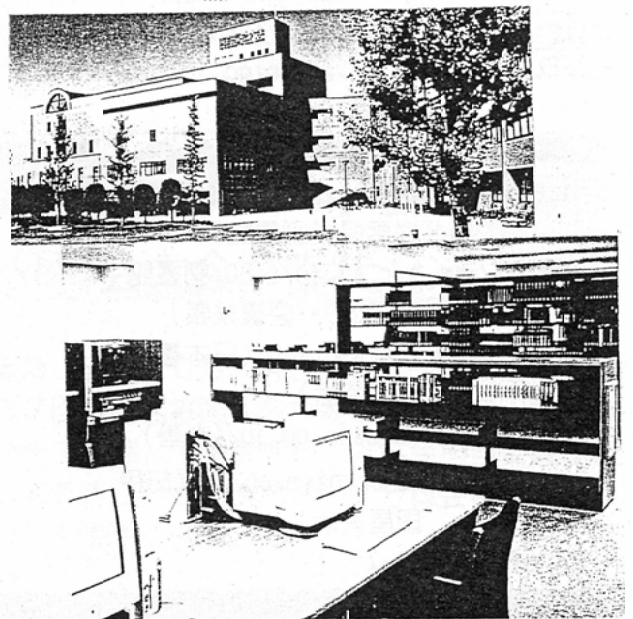
基調講演の中で情報リテラシーが、「文献利用指導教育」であり、その定義が「情報リテラシーとは、情報が必要であるという状況を認識し、情報を効果的に探索し、評価、活用する能力」であることを学び、情報を提供する立場の図書館にとって、密接に関わってくる重要な言葉であることを理解しました。

利用者にとってわかりやすく、より効果的に情報を提供することのできる図書館にするには、利用者には図書館を理解してもらうことが不可欠だと思います。

本館では、入学時のオリエンテーション以外、情報リテラシー教育の時間を設けていません。

今回の研究会で各大学の状況も把握できましたので、これらを基に今後役に立てたいと思います。

新加盟館紹介



東京福祉大学附属茶屋四郎次郎記念図書館 館長代理・学長 星野貞一郎

東京福祉大学は平成12年4月に伊勢崎市山王町に開学いたしました。

当学は社会福祉学部社会福祉学科の単科大学で、社会福祉のスペシャリスト・ケースワーカー・ソーシャルワーカーをめざす社会福祉専攻、精神保健福祉のスペシャリスト・精神科ソーシャルワーカーをめざす精神保健福祉専攻、心理学の知識やカウンセリングの技術を身につけた福祉のスペシャリストをめざす国際福祉心理学専攻の3つの専攻があります。

また、校舎は全館冷暖房が完備され、段差のない

バリアフリー構造になっており、障害者用トイレやエレベーターなども完備されています。

東京福祉大学附属茶屋四郎次郎記念図書館の名前の由来となった茶屋家中島氏は中世の清和天皇の流れをくむ武士小笠原源氏の末流で、近世の初期に豪族として活躍し、茶屋四郎次郎清延の祖父宗延の代に山城の國中島の地を領して中島姓を称し、後に京都に住み、武士であると同時に御用商人となりました。

茶屋家の祖とされる茶屋四郎次郎清次からは御朱印船貿易としても知られるようになりました。

本学の総長である教育学博士中島恒雄は、茶屋四郎次郎清延17代直孫であり、図書館入口には茶屋家の祖茶屋四郎次郎清延夫婦像がまつられています。

図書館は本館2階にあり、社会福祉分野を中心に国内外のさまざまな文献を収集しています。

また、図書館システムはブレインテック社の情報館を使用しており、OPAC、視聴覚設備(ビデオ)、インターネットによる資料収集やレポート作成のためのパソコンといった利用者のための設備もそろっています。開学までもないため、まだ図書は充分にはそろっていませんが、これからどんどん増やして利用者の要求に応えられる図書館にしていきたい。

加盟館トピックス

【群馬社会福祉大学の開学】

群馬社会福祉短期大学

亀井 健一

群馬社会福祉短期大学を母体に、21世紀の福祉リーダーの養成を目指して、平成14年4月に群馬社会福祉大学が開学されます。

短期大学は短期大学部となり大学に併設され、短期大学部には介護福祉学科が設置されます。

大学には社会福祉学科が設置され、社会福祉専攻と児童福祉専攻で構成されます。

社会福祉専攻は社会福祉コースと福祉心理コースからなります。

現在大学校舎の建設が進み、大小講義室、各種実習室、音楽室、ピアノ演習室、研究室、学生ホール、多目的ホールなど、4年制大学にふさわしい施設設備になります。図書館は大学と短期大学部との共同利用になります。

児童福祉や心理学関係を中心に数千冊の図書が新

たに入ります。いずれ図書館の拡張が予定されています。

今後も図書館の一層の充実を図りたいと考えています。

【平成13年度公立短期大学図書館協議会関東地区協議会開催】

県立医療短期大学

奈良 厚子

去る平成13年8月3日(金)本学を会場に、当館を含め9館18名が出席し平成13年度公立短期大学図書館協議会関東地区協議会が開催されました。

現在加盟館は10館ですが4年制大学への移行が進み減少してきており、来年度は9館になる予定です。

議事に先立ち、「図書館サービスと著作権」と題して、高崎健康福祉大学図書館副館長橋本登美雄氏による講演が行われました。

議事では、10月24日に岐阜県で開催された総会に提案される「(1)公立短期大学図書館協議会会則案について、(2)公立短期大学図書館改善要項についての関東地区の意見について」協議を行いました。

最後に情報交換として

- ①土日の開館について
- ②長期休業中(夏休み、冬休み等)の開館について
- ③図書の選定基準の有無
- ④図書選定方法
- ⑤図書の廃棄基準の有無と廃棄の方法
- ⑥外部データベースの学生の利用状況
- ⑦情報検索の財源
- ⑧DVDの購入状況
- ⑨次期公立短期大学図書館協議会職員研修会のテーマや研修内容について各館の状況の報告が行われました。

【図書館電算化について】

群馬パース看護短期大学

石井 久雄

本学図書館では、平成13年9月より、開学当初の悲願でありました図書館の電算化をスタートすることが出来ました。

これまで、図書を貸し借りするのも、検索するのも、すべて手作業で行わなければならない状態で、利用する側から見ると、大変使いづらい図書館であったと思います。

そのため、昨年度から図書館を電算化していこうという計画をスタートいたしました。そして、今年、電算化に必要なソフトとハードの一部を導入することが出来ました。

今回、「情報館95」(ブレインテック)を導入いたしました。まだ、ソフト・ハードに振り回されている段階で、図書館利用者には迷惑をかけておりますが、早く使いこなせるようになり、図書館の利用者により一層のサービスを提供できるようにしたいと考えております。

開学4年目の短期大学の図書館ですが、今後とも利用者が使いやすい図書館を目指していこうと思います。

加盟館である群馬県の図書館関係者、また、図書館を利用して頂ける方々には、今後ともご指導をしていただけるようよろしくお願いいたします。

【試験期の日曜開館について】

群馬大学附属図書館

高林 桂子

従来群馬大学においては本館、分館とも日曜開館は実施しておりませんでした。

今年2月に学生等に図書館アンケートを試みまして、日曜開館を望む声が多数ありました。

予算措置がなされない等の理由でなかなか実施にふみきれませんでした。今年度は試験期のみ日曜開館を試行することになりました。

今年度、日曜開館は本館4回、医学分館7回、工学部分館4回実施の予定です。

すでに前期試験期の日曜開館は終了いたしました。各館とも利用者が多く好評でした。今後とも学生の要望に応え、費用対効果のある程度考慮に入れながら、通年日曜開館を検討する方向です。

平成14年度 第88回

全国図書館大会 (群馬大会) に向けて

《第3分科会・第4分科会大会準備状況》

平成14年度第88回全国図書館大会群馬大会が(社)日本図書館協会と群馬県図書館協会等の共催により平成14年10月23日(水)～25日(金)の3日間、県民会館を主会場として14の分科会に分かれ開催されます。

県大学図書館協議会が第3・4分科会を担当しますが、これまでの準備状況を報告します。

岐阜大会視察報告

第3分科会 (大学図書館)

第3分科会は岐阜大学小講堂において「21世紀の大学図書館の役割」のテーマで、国公私立大学の図書館職員ら198名が参加して行われた。

谷口敏夫京都光華女子大教授が「21世紀の大学図書館を創る」と題した基調講演を行い、続いて3つの事例発表が行われた後、会場参加者も交えたIT時代の大学図書館についての活発な質疑応答があった。

また、去る10月24日(水)～26日(金)第87回全国図書館大会が岐阜県(長良川国際会議場を主会場)で開催され、分科会担当委員が視察してきましたので、第3・4分科会視察状況についても掲載します。



岐阜大会 第3分科会会場風景

お知らせ

第3分科会に参加して 高崎経済大学

松本 義則

この分科会で感じたのは、大学図書館の電子図書館化を進めるためには、生涯学習を踏まえて専門研究に必要な電子ジャーナルなど多種の高度メディアを扱う部門(ハード面の整備)と教育研究者が常駐する大学の機能を生かして思索・研究を援助できる部門(ソフト面の活用)を総合的に形成活用することがこれからの大学図書館の役割となるように思いました。

第4分科会(短大・高専)

第4分科会は岐阜県図書館多目的ホールを会場として、「21世紀の短大・高専図書館のありかた」—情報化時代を迎えて—をテーマで、公私立短大・高専図書館職員ら約150名が参加して行われた。

午後から、それぞれ短大・高専分散会に分かれパネルディスカッションが行われた。



岐阜大会第4分科会短大分散会場風景

短大分散会に参加して

県医療短期大学

奈良 厚子

短大分散会では、「21世紀を迎えた短大図書館の課題と取り組み〜減量経営環境下、元気の出る図書館活動」をテーマに6本の事例報告がありました。

短大を取りまく社会的、経営的状況が厳しさを増す現況の中で、活発な図書館活動を行っている事例を聞かせていただき、自分自身もとても勇気づけら

れました。

また、これからの短大経営には今あるものを最大限創意・工夫して活用していく姿勢が大切だと思いました。

高専分散会に参加して

群馬工業高等専門学校

堀口 純夫

高専分散会では、まず、高専教育における図書館のあり方、総合情報センターとしての図書館の位置づけについて、藤谷、柴田両氏の講演が行われた。

それぞれ、館長、研究者という視点から多角的に図書館が分析され、興味深い内容であった。

また、長岡技大・寺尾氏からは、電子ジャーナル利用の実態について、統計を交えた詳細な報告があり、たいへん参考になった。

図書館が高専教育の中心的役割を担う施設であることをあらためて実感した。

平成14年度 第88回全国図書館大会
(群馬大会)

第3・4分科会の構成

今年度は分科会構成検討委員会組織の基に準備を進めておりますが、新年度以降は、この組織が運営委員会となり開催準備に当たります。

◆第3分科会担当委員

群馬大学附属図書館

高橋 昭夫

//

土 師 守

県立女子大学附属図書館

川 島 裕

高崎経済大学附属図書館

松本 好則

前橋工科大学附属図書館

倉林 邦男

◆第4分科会担当委員

県立医療短期大学図書館

奈良 厚子

育英短期大学図書館

山田 愛子

関東短期大学松平記念図書館

谷川 涼子

新島学園女子短期大学図書館

小山みどり

群馬工業高等専門学校図書館

三田村道子

第3分科会 大学図書館

テーマ：大学改革と図書館

～これからの大学図書館のあり方を問う～

期日：平成14年10月24日（木）

場所：群馬大学 大学会館（建築中）

日程：

9：00 受付開始

9：30 開会

9：50～12：00

基調講演及び事例発表3件

昼食

13：00～16：00

パネルディスカッション 1. 2

午前に基調講演と事例発表3件を行い、午後にパネルディスカッションをフロアからの発言を交えて行う。

今後、講演者、事例発表者等について人選を行い決定していくことになります。

また、この第3分科会を企画・運営するにあたり、司会者、記録係、受付係、接待係等の役割分担を加盟館員（大学）の方々の御協力を得て準備を進めていくことになります。

第4分科会 短大・高専図書館

テーマ：「利用者の求める図書館のゆくえ
携帯世代への情報リテラシー」

期日：平成14年10月24日（木）

会場：県民会館

日程：

午前 基調講演2件

午後 短大・高専分散会に分かれます。
分散会会場については検討中。

短大分散会

事例報告を3件行い、パネルディスカッション形式でフロアからの発言を交える。

高専分散会

パネルディスカッションを予定している。

◆講演者、事例発表者等との人選を行っているところです。

また、司会者、記録係、受付係、接待係等の役割分担について第3分科会同様加盟館員（短大・高専）の方々のご協力を得ていくことになります。

群馬県大学図書館協議会会員名簿

育英短期大学図書館

関東学園大学松平記念図書館

関東短期大学松平記念図書館

桐生短期大学図書館

共愛学園前橋国際大学図書館

群馬県立医療短期大学図書館

群馬県立女子大学附属図書館

群馬工業高等専門学校図書館

群馬社会福祉短期大学図書館

群馬松嶺福祉短期大学図書館

群馬大学附属図書館

群馬大学附属図書館 医学分館

群馬大学附属図書館 工学部分館

群馬パース看護短期大学図書館

上武大学附属図書館

上武大学附属図書館 分館

高崎経済大学附属図書館

高崎芸術短期大学図書館

高崎健康福祉大学図書館

高崎健康福祉大学短期大学部分館

高崎商科大学図書館

東京福祉大学附属

茶屋四郎次郎記念図書館

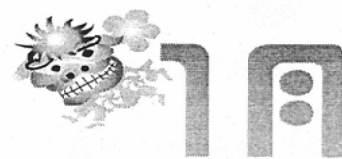
東洋大学附属図書館板倉分館

新島学園女子短期大学図書館

放送大学群馬学習センター図書館

前橋工科大学附属図書館

明和学園短期大学図書館



編集後記

会報第7号をお届けします。

本号から横書きに変更いたしました。

次号も皆様のアイデア、ご意見をたくさんお寄せください。

◎編集委員

高橋昭夫（群馬大学附属図書館）

倉林邦男（前橋工科大学附属図書館）

谷川涼子（関東短期大学松平記念図書館）